「大雨や台風の防災情報と避難行動」に関するアンケート

リサーチプラン

1. 調査の背景と目的

大阪府では、水害や土砂災害から人命を守るために、人命へのリスクが高い箇所から優先的に対策を実施するとともに、リスク周知や府民自らが適切な避難判断に必要な雨量、水位、河川カメラ画像、土砂災害危険度等の防災情報の充実を図っています。一方、平成29年10月22日に大阪府へ接近した台風第21号では、府内各地において、避難勧告等が発令され、交通機関等の不通や家屋被害、さらに死傷者も出るなど、大きな被害がもたらされました。今後も安全・安心を確保するため、府民の防災情報活用状況と、台風時の避難行動を調査し、河川カメラの効果検証や防災情報提供の検討資料とする。

1. 調査仮説

仮説１　避難行動をとった人ほど、早い段階から気象情報を注意しており、河川カメラも利用している。

仮説２　自宅が土砂災害警戒区域の人は、早い段階から気象情報を注意しており、避難行動をとっている。

1. 調査対象

・18歳以上の大阪府民1000サンプル

ただし、平成29年10月22日に大阪府に接近した台風第21号で、

洪水もしくは土砂災害の避難勧告・避難指示が発令された区域に居住し、発令を認識している人：６００人

発令地域以外（わからないを含む）：400人

・発令があった区域のある31市町村（大阪市、能勢町、豊能町、高槻市、島本町、大東市、交野市、四條畷市、東大阪市、八尾市、柏原市、松原市、藤井寺市、羽曳野市、富田林市、河内長野市、大阪狭山市、太子町、河南町、千早赤阪村、堺市、和泉市、泉大津市、忠岡町、岸和田市、貝塚市、泉佐野市、泉南市、阪南市、熊取町、岬町）

・発令がなかった12市町村（池田市、箕面市、豊中市、茨木市、吹田市、摂津市、枚方市、寝屋川市、守口市、門真市、高石市、田尻町）

・地域割付　なし

1. 質問項目

予備質問　2問

本質問　16問

＜予備質問＞

SC１　市町村　→31市町村はSC2へ、12市町村は本質問へ

SC2　自宅地区に台風第21号の際、発令があったか（SA）

　（勧告・指示・両方・ない）

＜本質問＞

Q１　普段から気象情報はどのような媒体で取得しているか(MA)

Q２　大雨や台風時に気になる情報(MA)

Q３　安全を意識し始める気象情報(SA)

Q４　携帯電話やパソコンでリアルタイムに河川状況を画像で確認できる情報サイトの認知。(SA)

（参考）http://www.osaka-pref-rivercam.info/

Q５　上記を知った媒体（MA）

Q６　ハザードマップの認知・利用(SA)

Q７　洪水リスク図の認知・認知(SA)

Q８　土砂災害警戒情報の認知(SA)

Ｑ９　自宅が土砂災害警戒区域か(SA)

【平成29年10月22日の台風第21号について】

Q10　【避難勧告・避難指示が発令された対象者】発令の種類(SA)

Q11　台風接近時に利用した情報源(MA)

Q12　【避難勧告・避難指示が発令された対象者】発令を知った媒体(SA)

Q13　台風第21号の接近の際に、河川カメラ画像を見たか(SA)

Q14　台風21号の接近の際にとった避難行動(SA)

Q15　【実際に避難（移動）した人】避難した理由(MA)

Q16　【実際に避難（移動）しなかった人】避難しなかった理由(MA

1. 検証方法

仮説１　Q14×Q３、Ｑ13

仮説２　Ｑ9×Ｑ13、Ｑ14